

コメディリック第4回「この振る舞いを見る」

「警告の廊下へ振る舞いの館・エピソード1」

登場人物

齋藤

野彦

高木

ペイリー・チャイルド

吉田

テオ・ポー

白石

シロスコフ

〔L・明転〕

※高木、登場

高木 N

「俺たちは吉田に誘われて街のはずれにある大きな屋敷へと忍び込んだ」

〔M・廊下BGM―C―〕

※齋藤、吉田、白石、登場

おそろおそろ、屋敷に侵入する一同

齋藤だけばっちり設備が整っている

齋藤

「はやく！ほら！はやく来い！」

高木

「吉田、本当にあるんだろうな？」

吉田

「間違いないよ。この目で確かに見たんだ。この屋敷の一番大きな窓の部屋に1億円分のビットコインが落ちてるのを

…

白石

「1億円分のビットコイン…」

高木

「本当なんだろうな？」

吉田

「部屋中にジャラジャラ散らばってた！」

齋藤

「4人で分けても2000万…」

高木

「…計算違うくない？」

齋藤

「一生遊んで暮らせるぞ！」

高木

「…一生は無理じゃない？」

齋藤

「女も寄ってくるぞー！女、女、女

ー！」

高木

「ダメだ。欲に目がくらんで正論が聴こ

えてない」

白石

「高木の言う様に疲れたし、齋藤の言う

様にお金は欲しいし、結論。さっさと済ませちゃおう」

先に一人行こうとする白石を齋藤が制止する

齋藤

「待って！」

〔M・FO〕

齋藤

「…この部屋…（ゴーグル装着）赤外線

トラップが仕掛けてある」

白石

「マジか」

吉田

「齋藤かけー！」

高木

「え、どうすんの？その赤外線見えるゴ
ーグル1つしかねえじゃん」

齋藤

「俺が先に行く。みんなは後から続いて
くれ」

吉田

「齋藤、頼む」

齋藤、トラップをかいぐる動き

「SE・サイレン」

白石

「やばいバレた！」

高木

「何やってんだよ！」

急いで逃げる一同

※全員、はける

※全員、登場

高木

「ふざけんなよ！全然ダメじゃん」

吉田

「焦ったー」

齋藤

「こうなれば仕方ない。人が来る前に辿
り着こう」

白石

「そうしよう」

先に一人行こうとする白石を齋藤が制止する

齋藤

「待つて！…（ゴーグル装着）この部屋
も…赤外線がある」

吉田

「白石、気を付けないと」

白石

「ごめん」

齋藤

「俺が先に行く」

齋藤、トラップをかいぐる動き

「SE・サイレン」

高木

「ふざけんなよ！」

急いで逃げる一同

※全員、はける

※全員、登場

高木

「さっきのデジャブじゃねえかよ！」

吉田

「心臓に悪い…」

白石

「もう走れないよ…」

齋藤

「大丈夫。まだ人は来てない。先を急ご
う」

白石

「喉乾いたからどっかで飲み物を…」

先に一人行こうとする白石を齋藤が制止する

齋藤 「待って！…（ゴーグル装着）…赤外線だ」

吉田 「白石」

白石 「ごめん」

高木 「さつき見たよこれ！また同じなんじゃないの？」

齋藤、トラップをかくぐる動き

「SE・サイレン」

高木 「ほらー！」

急いで逃げる一同

※全員、はける

※全員、登場

高木 「何やってんの？全員で！もうそれ貸せ俺に！どうせあんだろ赤外線が！（ゴーグル装着する）…おいおいおいおい！」

白石 「高木どうした？」

高木 「一本だよ！赤外線一本！」

白石 「え、一本？」

高木 「ここにピーって一本！お前、一本の赤

外線に引つかかったの？」

齋藤 「一本でも赤外線。油断するな」

高木 「お前に言われたくねえよ」

吉田 「高木、頼む」

高木 「（先へ進もうとする）あ、でも、嫌な

高さがあるな…」

吉田 「うそ？」

高木 「なんか走高跳びくらいの高さ」

吉田 「走り高跳び」

高木 「中学校の時の運動テストの後半くらい

の」

白石 「それは嫌だな」

高木 「んだよ…えーと…（走り高跳び的に飛

ぶ）よしクリアー！」

吉田 「おー」

高木 「ほら（上からゴーグルを投げる）」

吉田 「よし」

吉田、装着、悩みつつ諦めて、下からぐる

白石 「全然下からの方がいいじゃん」

吉田 「だよね」

じっと高木を見つめる一同

吉田 「白石、一応(下から渡す)」
白石 「うん(ゴーグル装着) 本当に一本だ
な」
高木 「だろ？」
白石 「え、待って！動き出した！上下に動き
出した！(目で追う)」
吉田 「え、マジ！」
白石 「どうしよう！こんなの無理だよ！」
高木 「落ち着け！ゆっくりタイミング計っ
て！」
白石 「無理だよ！こういう大縄みたいなの苦
手なんだよ！小学生の頃、大縄で失敗し
て虐められたトラウマもあるよ！」
高木 「白石、落ち着け」
吉田 「ダメだ。置いていこう！」
高木 「え？」
吉田 「だって一本で引つかかるバカとパニッ
クになってるデブだよ？俺たちだけで行
こう」
高木 「お前、急にドライだな！」
齋藤 「白石、貸せ！俺と一緒に行くぞ！」
高木
ゴーグルを装着する齋藤
高木 「齋藤、頼む！お前だけが頼りだ！」

齋藤、白石と手を繋いでトラップをかいくぐる
ろうとするが、引かかる
「SE・サイレン」
高木 「だと思ったー！」
急いで逃げる一同
※全員、はける
※全員、登場
高木 「期待した俺が馬鹿だった」
吉田 「流石に誰か来るんじゃないの？」
齋藤 「一刻を争う」
高木 「もう貸せ！(ゴーグル装着)うわ、こ
の部屋はガチだよ。よく見るヤツだよ
…」
吉田 「よく見る？」
高木 「よく見る感じでもう赤外線が凄い。張
り巡らされてる」
吉田 「高木、頼む。時間は無いんだから」
高木 「あーもう…」
一生懸命に掻い潜る高木

白石

「思ったんだけどさ、もうバレてるんなら一々気にしなくていいんじゃない？」

吉田

「確かに！」

齋藤

「急ごう！」

無視して先に進む3人

〔SE・サイレン〕

※3人はける

少しの間、掻い潜り続けるが途中でやめる高木

高木

「この辱め、忘れねえからな」

※高木、はける

〔L・暗転〕

——